

新居浜の

産業遺産物語

物語⑬

おとしばし
遠登志橋

(国登録有形文化財)



昭和初年頃 (出典：新居浜の文化財)



現在

遠登志橋は、かつて別子銅山の採鉱本部が置かれ多くの人々が暮らしていた東平地区へ行く生活道として、明治38年(1905)に架設されました。また橋には、第三通洞からの坑内排水が河川へ流入することを防ぐため、坑水路も併設されていました。

橋は鋼製アーチ橋で、ドイツ・ブルバツハ社製の鋼材が用いられています(ドイツ・ブルバツハ社製の鋼材は旧端出場水力発電所でも使用されています)。橋長48メートル、幅員2.4メートルを有し、明治時代に架設された鋼製アーチ橋としては国内最古級の橋です。

耐荷能力不足による架け替えが検討されましたが、平成5年(1993)に既存のアーチ橋の上へ新たな吊り橋を設置し、アーチ部分を保存する方法が採用されました。そのため現在は吊り橋のように見えますが、その下に残るアーチ橋が本来の遠登志橋です。

別子銅山文化遺産課 ☎ 65 - 1236

広告欄